

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月13日

協議会名: 長野県公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	山田温泉線 ※ノンステップバス車両購入	地域公共交通会議にて、路線再編に向けての協議を行なった。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.9 に対して 実績輸送量28.8であった。	利用人員の減少により路線維持が厳しい状況であるため、路線再編により効率的運用を実現すべく、関係機関と協議を進めていく。
	上林線	利用人員は微増傾向にあり、引き続き利用促進を図る。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:22.9 に対して 実績輸送量23.5であった。	外国人利用者が増加しているため、時刻表等に英語表記ができるよう検討していく。
	須賀川線	路線再編に向けて、関係機関と協議を行なった。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:17.2 に対して 実績輸送量16.3であった。	利用人員の減少により路線維持が難しくなっているため、他路線との再編を実現すべく、関係機関と協議を進めていく。
	永田線 ※ノンステップバス車両購入	通学で利用するお客様の利便向上のため、電車との接続を改善した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:27.3 に対して 実績輸送量22.9であった。	通勤通学客は駅まで自家用車での送り迎えが見受けられることから、電車との接続改善を図り、利用者増に努めたい。
	屋島線 ※ノンステップバス車両購入	定時運行の確保のため、ダイヤ改正を行い旅客の利便向上を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:22.4 に対して 実績輸送量22.4であった。	通勤通学で利用されるお客様に加え、沿線でのイベント時に、多くの方に利用して頂けるよう、路線の周知を図っていく。
	牟礼線	収益改善のための貨客混載運行実施に向け、関係機関と協議を行なった。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:33.4 に対して 実績輸送量30.8であった。	貨客混載運行の実施に向け、先行事例の調査及び関係機関との調整を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	野沢線	北陸新幹線飯山駅からの利用促進を図るべく時刻改正を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:43.4 に対して 実績輸送量37.1であった。	在来線からの通勤通学客に加え、新幹線からのさらなる観光客需要も取り込めるよう運行時刻の見直しを図っていく。
	中野木島線	北陸新幹線飯山駅からの利用促進を図るべく時刻改正を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:24.6 に対して 実績輸送量18.0であった。	在来線からの通勤通学客に加え、新幹線からのさらなる観光客需要も取り込めるよう運行時刻の見直しを図っていく。
	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅)	収益改善のため、関係機関に協議開始の申し入れを行なった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:19.2 に対して 実績輸送量23.2であった。	曜日及び時間帯によって、利用状況に差が生じていることから、利用実態に応じたより良い運行形態となるよう、関係機関と検討を行なう。
	屋代須坂線(須坂駅～松代駅)	収益改善のため、関係機関に協議開始の申し入れを行なった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:20.0 に対して 実績輸送量22.4であった。	曜日及び時間帯によって、利用状況に差が生じていることから、利用実態に応じたより良い運行形態となるよう、関係機関と検討を行なう。
アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～高府) ※ノンステップバス車両購入	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量37.2 に対して、利用者が伸びなかったことから、 実績輸送量36.5であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	高府線(善光寺大門～初引)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量20.3 に対して 実績輸送量20.6であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	鬼無里線	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、市営バスとの乗継の接続を図るなど、ダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量45.5 に対して、利用者が伸びなかったことから、 実績輸送量43.8であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	県道戸隠線	学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量41.8に対して、実績輸送量40.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～新町)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量23.4に対して、実績輸送量29.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～大原橋・犀峽高校)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量30.3に対して、実績輸送量29.6であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	山形線 ※ノンステップバス車両購入	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を実施するとともに、バリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量37.2に対して、利用者が伸びなかったこと及び10/1からの経路変更により実車走行キロが増加したため、実績輸送量30.2であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	四賀線	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量31.3に対して、実績輸送量31.8であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	本線	従来より、本線にはノンステップ、ワンステップバスを導入して好評を頂いている。茅野市及び岡谷市の市民バス時刻表に本線ダイヤも記載し利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量39.7に対して、実績輸送量37.8であった。	利用旅客の減少が続く中、ダイヤ、運行系統の見直しを実施した。今後も旅客のニーズにあった運行を目指し利用促進を図る。
千曲バス(株)	佐久上田線	土日祝日の運休を引き続き実施して経費削減を図った。また、上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:15.0に対して実績輸送量16.5であった。	沿線自治体からの支援をいただきながら、引き続き土日祝日の運休を実施し経費削減を図る。また、運賃低減バスが継続されたため、今後もバス存続に向けて地域への働きかけを実施する。
	中仙道線	コミュニティバスとの接続を考慮し、ダイヤの見直しを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。 3 / 5	A 目標輸送量:40.0に対して実績輸送量46.5であった。	県有民営による幹線バス路線確保対策事業を活用して中型ノンステップバス導入し、高齢者や障害者の利便性および安全性を向上させる。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千曲バス(株)	鹿教湯線(鹿教湯車庫～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:45.0 に対して 実績輸送量51.0であった。	運賃低減バスが継続されたため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
	鹿教湯線(丸子～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:40.0 に対して 実績輸送量62.3であった。	運賃低減バスが継続されたため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
	青木線	青木村・上田市と連携した運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:65.0 に対して 実績輸送量72.3であった。	運賃低減バスが継続されたため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
上田バス(株)	真田線	夏休みキッズバスの配布。連動し、夏休みスタンプラリーキャンペーンを実施することで将来の利用者掘り起し。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量16.5人 に対して 輸送量は19.4人であった。	NHK大河ドラマの影響による客足の伸びを活かす。今後もバス乗り方教室の開催やチラシの発行による利用啓発を促す。
	菅平高原線 ※ワンステップバス車両購入	沿線近隣の小中学生を対象としたバスの乗り方教室の実施、将来の利用者掘り起し。複数回乗車のお客様に高原野菜プレゼント企画実施。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量31.3人 に対して 輸送量は43.6人であった。	NHK大河ドラマの影響による客足の伸びを活かす。菅平観光協会と協力し、今後も野菜のプレゼント等の企画を実施していく。
	真田自治センター入口線	夏休みキッズバスの配布。連動し、夏休みスタンプラリーキャンペーンを実施することで将来の利用者掘り起し。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量22.4人 に対して 輸送量は32.7人であった。	上田市と協力し、引き続きNHK大河ドラマの観光客取り込みを目指す。観光利用客に向け路線案内の充実を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
信南交通株	駒場線(中村経由)	高校生の日曜祝日の部活動に配慮し運行回数を増回。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 輸送量35.4人以上の目標に対し42.1人となり目標を達成した。	阿智高校の学校行事にあわせ続行便を運行。
	駒場線(市立病院経由)	朝の通学時間帯の便について利用者が多いため続行便を運行。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 輸送量18.5人以上の目標に対し25.5人となり目標を達成した。	高校生の土曜日部活動に配慮し運行回数の増回予定。